

# 地域とともに — 当事者・家族と歩む実践からの報告 —

中本 富美<sup>†</sup> 駒井 清暢2021年10月23日～  
11月20日 Web開催

IRYO Vol. 77 No. 2 (91–95) 2023

## 要旨

【目的】筆者の所属する医王病院（当院）は障がい者医療に特化している医療機関であり、診療・ケアなどの医療および障がい福祉サービスを提供している。当院で初めての医療ソーシャルワーカー（MSW）として、当院の役割と患者や家族の声や地域の支援者からの要請や期待を手掛かりに重ねてきた実践を紹介し、「地域に根差した障がい福祉サービスの取組み」について考察していく。【方法】当院と地域とのつながりの取組みとして、診療録・MSW活動記録から「神経難病患者への専門医療機関としての役割」、「神経難病患者への在宅支援」、「重症心身障がい児・者への生活支援」、「筋ジストロフィーの子どもへの支援」、「子どものこころの診療」を抽出、紹介し、それぞれの当院および地域の課題について整理をする。【結果】先の5つの取組みに共通するのは、実践を通してソーシャルワークにおけるアセスメントを行い、課題・ニーズを院内や地域で共有することだった。具体的には、患者や家族からの声をもとに、地域の現状が当院を利用する患者や家族にどのような影響をおよぼしているかのアセスメントを行い、それらに関わる機関や支援者と共有することで自分たちの地域の課題・ニーズを整理して、患者の視点で地域に必要な資源についての検討を行っていた。

患者や家族からの声を院内や地域で共有する仕組みを通して、自院と地域の課題を明確に共有できるが、これは新規の仕組みを自施設が主体的に立ち上げるだけでなく、既存の仕組みに積極的に参加することも有効である。当院の石川県難病連絡協議会への参画や、医療的ケア児支援センターの受託などの例から、これらの機会を得るためには日常的に行政や他機関との意思疎通を図り実績を重ねたことが重要で、今後も当事者の声を地域作りに活かす発信を続ける必要があると考えている。

キーワード 障がい福祉サービス, 障がい者医療, ソーシャルワーク

## はじめに

筆者の所属する国立病院機構医王病院（当院）は、障がい者医療に特化している医療機関であり、診療・ケアなどの医療および障がい福祉サービスを提供し

ている。当院は結核療養所から始まり、時代に合わせて重症心身障がい者や筋ジストロフィー患者、成人神経難病の入院機能が加わり、常に重い障がいを持つ患者たちへのセーフティネットとして役割を果たしてきた。平成17年に入職した当院で初めての医

国立病院機構医王病院 北陸脳神経筋疾患センター、<sup>†</sup>医療ソーシャルワーカー

著者連絡先：中本富美 国立病院機構医王病院 北陸脳神経筋疾患センター

〒920-0192 石川県金沢市岩出町二73番地1

e-mail: nakamoto.fumi.tz@mail.hosp.go.jp

(2022年3月29日受付, 2023年4月20日受理)

Community-based Social Work for Persons with Severe Disabilities and for Their Families

Fumi, Nakamoto and Kiyonobu Komai, NHO Iou National Hospital, Hokuriku Brain and Neuromuscular Disease Center

(Received Mar. 29, 2022, Accepted 20. Apr. 2023)

Key Words: welfare services for persons with disabilities, medical care for persons with disabilities, social work